毎週土曜日発行　月額購読料1430円(税込)　津有新聞　https://www.t-shinbun.net　1955年(昭和30年)4月1日第三種郵便物承認

人の幸せ生み出す「共生を」

ピンクリボン運動の朝日エル・岡山慶子会長

北野大塾で講演、塾長と副塾長のミニ講演も

ゲスト講師の朝日エル・岡山会長、北野塾長、及川副塾長（左から、町役場で）

2014年開講の「津南北野大塾」。塾長・北野大氏（秋草短大学長）、副塾長・及川紀久雄氏（新潟薬科大名誉教授）の交友関係を通し、各分野の最前線で活躍する第一人者がゲスト講師に来町。謝礼は津南産米や野菜だが、これが好評。今年度第2回はこのほど津南町役場で開催。講師は乳がん早期発見啓発の『ピンクリボン』運動開始など保険・医療・福祉・女性支援などテーマに活動する会社「朝日エル」創業者の岡山慶子会長。岡山会長は「テーマを決め何かしたいという時、誰に何を伝えたいかをきっちり考え、誰と誰を動かせば実現可能かを順序立てて活動することがうまくいく秘訣」と、ピンクリボン運動など広めた経験から語った。

1986年創業の朝日エル。当時から「持続可能な社会づくり」を基本方針に掲げる。「サステナビリティは1984年の国連会議で出てきた言葉」。持続可能社会は「共生が一番大事。簡単に言えば人が幸せになるのが共生。持続可能社会を作る一番の方針」。さらに合わせて「社会貢献とビジネスを融合させようとしてきた。人々の幸せという指標があるからできること。最初は外資系が理解を示してくれた。『愛と正義を実践していれば必ず利益が出る』という人がいて、会社を後押ししてくれた。それは真実だと思う」などと語った。

今回は北野塾長、及川副塾長もミニ講話を実施。この中で北野塾長は健康寿命と平均寿命の差は女性12年余、男性は8年余な点を指摘。『私はきょういくがある』（今日行く所がある）、『きょうようがある』（今日用事がある）ことが大事とし「幸福の反対語は、不幸じゃない。退屈や無気力。やることがない人、ということですね」といつもの笑顔で生きがいを持つ大切さを語った。